

文化的背景の中のデータ

グローバルアドバイザー調査 — 日本の「休暇」

2018年9月

Deanna Elstrom / 白浜史也

「悪魔は細部に宿る」— マーケッターとしてのキャリアのなかで出会ったある上司が好きだった言葉です。私はこの言葉が嫌いでした。上司は数字にこだわる人で、「数字からしか真実は見出せない」とよく口にしていました。一方で、私は数字では表すことができない、定性的な考え方を重視していました。しかし、マーケットリサーチャーとしてキャリアを歩んでいくなかで、「悪魔は細部に宿る」という言葉は間違いではなかったこと、特に人間のニーズ、モチベーション、行動などを表す数字の解釈にあたってはこの言葉がよくあてはまるということがわかってきたのです。「細部」とは、ここでは文化的背景を指します。

2018年9月にイプソスが行った「[休暇に関するグローバルアドバイザー調査 \(Global @dvisor\)](#)」の結果を見た時、数字が語る以上の何かが裏にあると直感的に感じました。調査結果だけを見ると、よく言われるように日本人は仕事人間であり、休暇を与えられたとしても休むことができない、あるいは休みたがらないという見解が裏付けられたように見えました。この調査によると、休暇取得日数や休暇を自宅外で過ごす割合について、日本人は最下位で、メールなど業務上の連絡を休暇中にチェックする頻度は世界で二番目に高い結果となりました。それだけを見ると、「日本人は仕事中毒だ」と結論付けてしまいそうですが、数字の裏の人間の姿というものは、やはり文化的背景によって説明が付くのです。

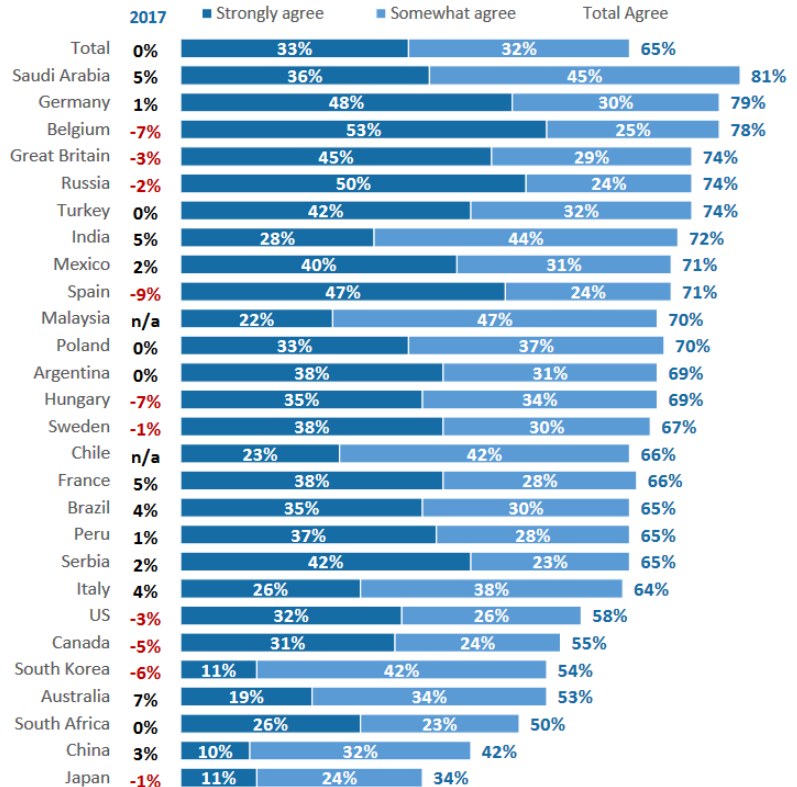


それを明らかにするには、まず日本の労働文化のなかの休暇の仕組みを理解することが必要です。アメリカでは、「通常の休み(vacation days)」「私用の休み(personal days)」「病欠(sick days)」などが別々に付与されますが、日本ではすべて「休暇」としてひとまとめに扱われます。たとえば年間10日の休暇があったとしても一気に取得してしまうことは一般的ではなく、病気や家庭の緊急な事情、その他の用事（結婚式、葬式など）に備え、休暇を残しておくのです。子どもがいる場合には、働きながら子どもの世話をしなければなりません。それに加え、今日の日本のように急速に高齢化が進む社会では、高齢の家族のための介護の時間が必要な人も多くいます。つまり、日本における「休暇」というのは本当の意味での休むということではなく、むしろ生活の現実的な側面に向き合うための「休暇」なのです。

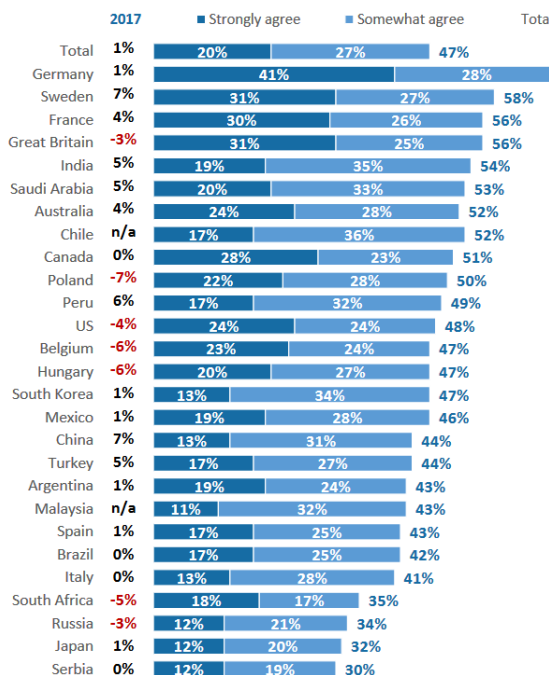
他人に「迷惑」をかけてはいけないという文化や、「迷惑」をかけることに対して大きな不安を抱くことも、日本人が「休み」の取得をためらう原因の一つかもしれません。誰かが休めば同僚が余計な仕事を引き受けることになり、それがさらにお客さまと関係する仕事であれば、お客さまにも「迷惑」がかかります。日本文化のお客さま第一主義は極端で、例えばお客さまを待たせることは言語道断とされます。他の人、特にお客さまが働いている時に1週間以上の休みを取ることは、日本の社会や企業文化では罪悪感を感じさせることなのです。

休みは取った方がいいというより取るべき絶対的な権利だという考え方は、他の大半の先進国比べて日本では一般的ではなく、他人に迷惑をかけたくないという理由から、与えられた休暇を使い切るのも難しいことです。この文化は深く根付いており簡単には変えることができず、調査によると、性別や年齢に関係なくこうした現状があることがわかります。

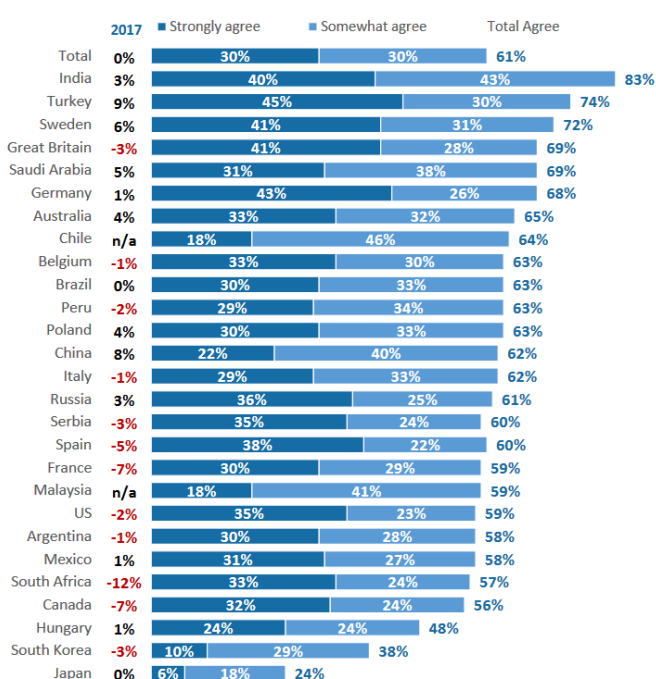
「与えられた休暇日数をすべて使う」



「休暇中には、仕事のメッセージやeメールをチェックしない」



「少なくとも1週間自宅から離れたところで休暇を過ごした、あるいは、これから過ごす」



その一方、国民の祝日をみてみると、アメリカでは11日、イギリスでは8日なのに対して日本では16日も祝日があります。一昨年には新たに「山の日」が国民の祝日として追加されました。また、日本では「夏休み」として3～5日間、正月にも4～5日間の休日が労働者に与えられます。夏休み期間中の「お盆」には実家に帰省し、先祖の魂を迎えるという伝統行事があります。こうしたまとまった休日には他の人も同様に休んでいるため、心から安らぎ、楽しむことができるのです。

文化的背景の細部を理解することで、日本人が休暇を取るのをためらうのは、必ずしも比較的働き者だからという理由ではないことがこのように明らかになりました。まとまった休日のように誰もが休む時以外に休暇を取得する障壁となっているのは、他ならぬ文化的背景なのです。

定量的リサーチと定性的リサーチが組み合わさるとき、行動の裏にある人間の姿が浮かび上がるのです。

